

## 岡部定一郎「福岡城寸描」(23)

### 1. 福岡城の構え

#### 本丸と天守閣台

福岡城の心臓部に当たる処が、本丸台地と呼ばれる御殿があった処である。歴代藩主が、公務を務める館である。

その建物の平面図(資料1)が残されていて、その図面を中心に精密な模型も縮尺ながら製作されている。(資料2)

25,500㎡の敷地に、現存する建物は祈念櫓のみであるが、天守台を含め、石垣が良好に残っており、4隅には、月見櫓跡や時櫓跡等の遺構が確認されている。

さらに、本丸台地には、高い処故、水脈を取り入れた井戸が3か所も掘られ、今なお、水が溜まっている。長年使用していないので、使用は不可なれど、水源地として残されている。

本丸台地の北側には本丸表御門、西側に下ると裏御門が設けられていた。

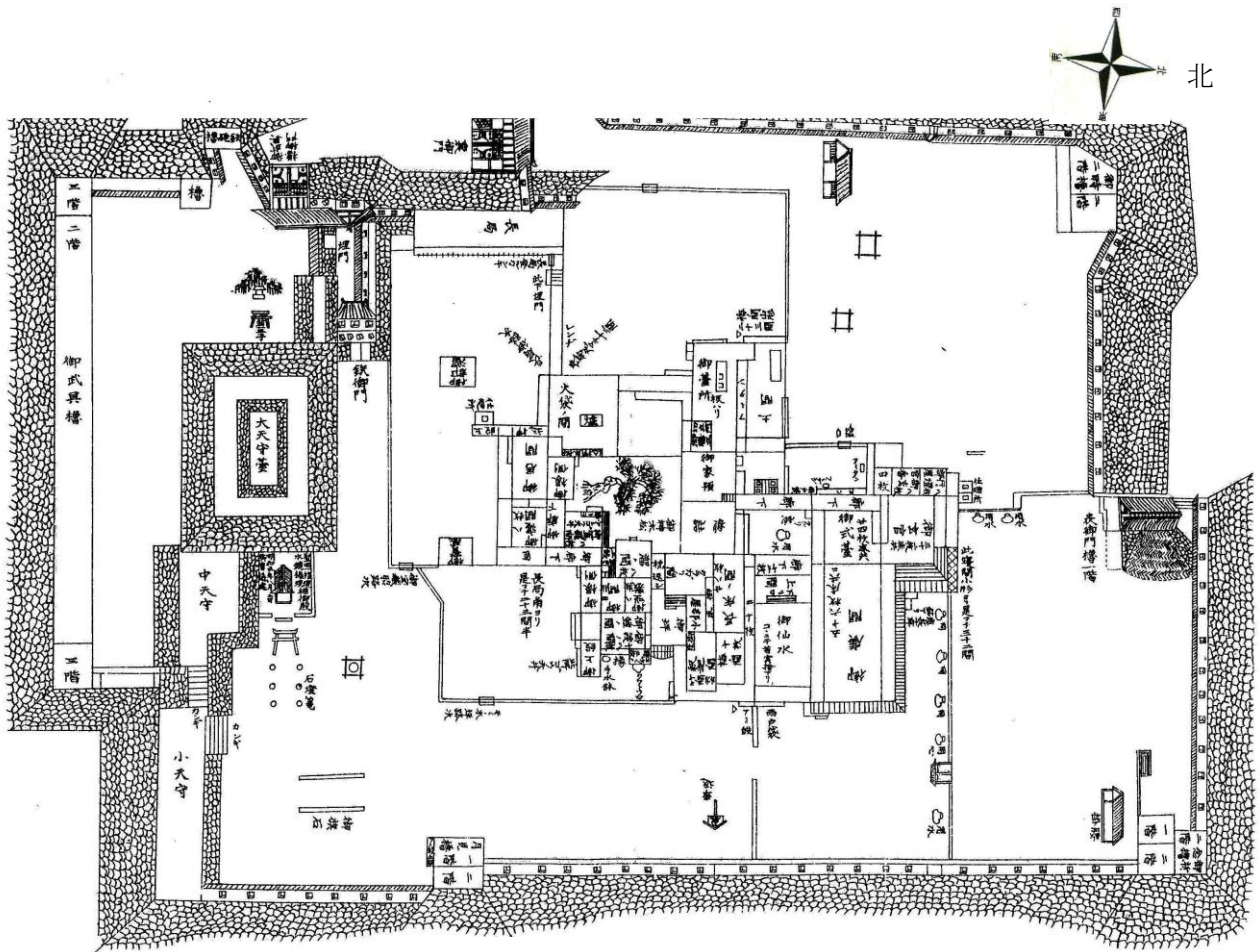
現在では、緑陰深く、松や桜等の大樹が植えて、静かなたたずまいでしかないが、広々とした建物跡には、黒大理石の銘板が置かれ、往時を偲ぶことができる。



天守閣台より本丸台地を望む



本丸台地の井戸



(資料1) 福岡城本丸之図 (如水長政所築)



(資料2) 福岡城本丸模型 (製作 : 筑前城郭研究会 小田原早嗣氏)